

心身医療

PSYCHOSOMATIC THERAPY

2月号

Vol.2 No.2

1990

■特集・日常診療に使える自律訓練法

自律訓練法の歴史
自律訓練法とは
重温感練習の指導法
重温感練習の指導法の実
自己統制法
〔臨床〕 口腔歯科領域
呼吸器領域
循環器領域
消化器領域
皮膚科領域
神経症

佐々木雄二
松原秀樹
松岡洋一ほか
森下 勇
池見 陽ほか
石井靖彦
千葉太郎
大谷 純
中井吉英
山岡昌之
山城一郎ほか

●連載

グラフィック・目で見る診断と治療(10)

癌の自然退縮

講座・日常に使える心理テスト(10)

Essay (4)・心身医学へのアプローチ

紹介・わが心療内科

中川俊二
桂 戴作
九嶋勝司
豊島中央病院/
関西医科大学

◆原著

摂食障害患者の治療における母性の重要性について 一條智康ほか

▼薬物治療

循環器系心身症に対するトフィソパムの効果 太田亮一ほか

▶症例報告

通走を繰り返した多重人格の1例 竹内俊明ほか

Drug Information テシプール錠

⑧ 医薬ジャーナル社

追悼

故 川上 澄 先生を偲んで

このたび、わが心療内科の原稿を依頼されましたが、弘前大学第1内科において心身医学の教育、研究、診療の中心的役割を果たしてこられました川上澄先生が逝去されました。本稿は川上先生の主な業績を紹介するとともに、追悼の文とさせていただきます。弘前大学第1内科の心療内科の紹介は別の機会に譲ることをお許し願います。故 川上 澄、弘前大学教育学部看護学科内科教授は平成元年10月8日、54歳で逝去されました。

戒名：顕真院釋澄徹

叙勲：正四位勲三等瑞宝章

川上教授略歴：

昭和10年4月18日：兵庫県姫路市に生まれる

昭和29年3月：岩手県立盛岡第1高等学校卒

昭和35年3月：弘前大学医学部卒

昭和40年3月：弘前大学大学院医学研究科内科学修了，医学博士（学位論文：胃・十二指腸潰瘍の精神身体医学的検討）

昭和40年4月：弘前大学医学部第1内科助手

昭和40年10月：弘前大学医学部第1内科講師

昭和41年2月：川島胃腸クリニック・副院長

昭和43年11月：弘前大学医学部第1内科講師

昭和49年4月：弘前大学教育学部看護学科内科教授

昭和60年3月～昭和61年2月：文部省在外研究員としてメイヨクリニック、オタワ大学で消化器心身医学の研究に従事

学会活動：

学会評議員：日本心身医学会，日本消化器病学会，日本消化器内視鏡学会，日本平滑筋学会，日本自律神経学会，日本大腸肛門病学会，日本体質学会，日本プライマリ・ケア学会，消化吸収学会

学会理事：日本自律訓練学会，日本交流分析学会，日本絶食療法学会

世話人：消化器 PSM 研究会

心身医学関連の主な著書：

IRRITABLE BOWEL SYNDROME 新興医学社

婦人心身症のすべて 南江堂

心身医学の实地診療 医学書院

心身医学—基礎と臨床 朝倉書店

心身症診療 Q&A (1巻, 2巻) 六法出版

川上家・弘前大学第1内科合同，故 川上 澄教授葬儀は，平成元年10月29日，



故 川上 澄教授

弘前商工会館ホールにて約700名の弔問者を集め、弘前大学医学部長・弘前大学第1内科教授 吉田 豊葬儀委員長のもとで厳粛に執り行われました。心身医学関係の方々からも多くの御参列、献花、弔電などをいただきました。この場をお借りして御礼申し上げます。なお、御芳志の一部は癌撲滅のための研究機関に寄付させていただきます。

弘前大学医学部第1内科前教授の松永藤雄先生（弘前大学名誉教授、都立駒込病院名誉院長、日本心身医学会名誉会員）は潰瘍性大腸炎の研究をはじめとして大腸疾患を中心に研究を進めておられました。松永先生はいち早く、当時、本邦では概念さえあまり知られていなかった心身医学の重要性を認識なされ、消化器心身症に対しても積極的に取り組まれました。その頃から活躍なされてきたのが川上先生であることは経歴、業績等からも十分おわかりいただけると存じます。川上先生の消化器心身症の研究は多岐に亘り、胃・十二指腸潰瘍、神経性食欲不振症、過敏性腸症候群、潰瘍性大腸炎などを心身医学の立場から追究なされました。54歳という脂の乗り切った最近の活躍でありましたが病には勝てませんでした。しかし、学問に対する情熱は最後まで衰えることなく、10月4日に旭川市で行われました第31回日本消化器病学会大会のパネルディスカッション「消化器進行癌患者のターミナルケアをめぐる諸問題」に病床から自らの経験をふまえたメッセージを託されました。残されたものにとって、今後とも弘前大学第1内科の心身医学の火をともし続けることが最良の供養と考えております。幽都におられる川上 澄先生の御霊に満腔の尊敬の誠を捧げつつ筆を擱きます。合掌

（文責 佐々木大輔）

「心身医療」編集部

ありし日の川上 澄先生は、闊達で優しい目が印象的で、かつ情熱的な方だった。本誌はもとより、当社発行の消化器並びに心身症関連の書籍に多数ご執筆を願い、また「プライマリ・ケア」の編集委員としても一角ならぬご尽力をいただいた。ここに佐々木大輔先生の追悼の文を掲載するとともに、川上先生のご冥福をお祈りするのみである。

（伊藤秀夫）